

出場予定選手											
級別	氏名	年齢	府県	期	勝率	連対率	4ヶ月得点	逃	捲	差	ク
S級S班	新山 豊平	29	青森	107	.411	.529	114.00	6	3	0	14
	佐藤 慎太郎	46	福島	78	.117	.352	115.00	0	0	3	3
	平野 康多	40	埼玉	400	.466	118.20	0	1	6	0	2
北日本	都司 浩平	32	神奈	99	.529	.823	120.75	2	9	2	1
	佐藤 和也	43	青森	95	.266	.600	107.33	0	0	5	4
	木村 弘	30	青森	100	.083	.250	102.18	3	0	0	9
関東	櫻井 正孝	35	宮城	100	.285	.428	101.28	0	0	2	1
	伏見 俊昭	46	福島	75	.142	.285	107.42	0	0	1	0
	高橋 晋也	28	福島	115	.157	.263	106.05	4	1	0	11
南関東	山岸 佳太	33	茨城	107	.454	.454	107.20	0	5	0	2
	神山 有希	21	茨城	119	.125	.375	110.00	4	2	0	8
	吉田 雄一	54	栃木	61	.153	.153	101.69	0	0	2	0
中部	池田 勇人	37	埼玉	90	.100	.400	103.11	0	0	3	1
	宿口 陽一	31	埼玉	91	.333	.333	110.66	0	1	3	0
	黒沢 征治	30	埼玉	98	.250	.625	110.00	0	0	3	2
近畿	黒沢 征治	30	埼玉	98	.250	.625	110.00	0	0	3	2
	黒沢 征治	30	埼玉	98	.250	.625	110.00	0	0	3	2
	黒沢 征治	30	埼玉	98	.250	.625	110.00	0	0	3	2
中国四国	白戸 淳太郎	49	神奈	74	.000	.333	106.00	0	0	3	0
	深谷 知広	45	静岡	80	.400	.600	110.95	0	0	3	0
	不破 将登	34	岐阜	94	.250	.600	103.75	4	5	2	1
九州	不破 将登	34	岐阜	94	.250	.600	103.75	4	5	2	1
	不破 将登	34	岐阜	94	.250	.600	103.75	4	5	2	1
	不破 将登	34	岐阜	94	.250	.600	103.75	4	5	2	1

PICK UP THE SAITAMA RACERS

S1 埼玉・90期
池田 勇人

S1 埼玉・91期
宿口 陽一

S1 埼玉・98期
武藤 龍生

S1 埼玉・113期
黒沢 征治

S2 埼玉・113期
森田 優弥

大黒柱の平原康多と共に、シリーズを盛り上げる地元選手達。
2022年をS級S班として戦い抜いた宿口陽一。苦しんだ1年だったが、10月の京王閣記念で今年初優勝を飾り、徐々に調子を上げている。73周年の大宮記念ではファイナリストに名を連ねた黒沢が後位から番手まくりを放ち、平原の3連覇に貢献。今大会は自身初の地元記念Vを目指して全力でペダルを踏み込む。
関東屈指のマーク屋に成長した武藤龍生も前回の大会のファイナリスト。白星こそ若干の物足りなさを感じるが、安定感ある走りです連対率は50%以上と車券貢献度は高い。
3年連続出場の森田優弥は失格の影響などもあり、S級2班の格付け。しかし、底力は上位級で優出がソルマといっても過言ではない。持ち味の強気な攻めで好結果を目指す。
池田勇人はすっかり追い込みが板に付き、マーク選手としての技量もアップ。ムラこそあるが、シャープな差し脚で大宮ビッグバンクの長い直線を駆け抜ける。
黒沢征治の先行力は地元勢にとって大きな武器。前回の大会のファイナリストとして今シリーズも臆することなく風を切る。

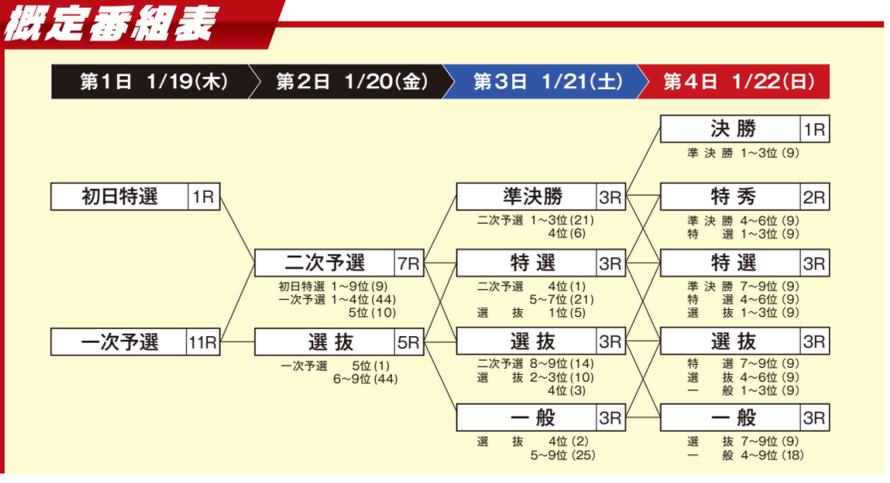
バンクデータ

周長 500m

最高上がりタイム 12秒8 プフリ 2017/07/19

1着決まり手グラフ			
逃げ	捲り	差し	
21%	22%	57%	
2着決まり手グラフ			
逃げ	捲り	差し	マーク
16%	11%	35%	38%

バンク特徴 東日本発祥の地、大宮競輪は500mバンク。直線が長い上にカントが深く、追い込み有利です。



S1 三重・111期
血屋 豊

S1 静岡・96期
深谷 知広

S1 茨城・119期
吉田 有希

S1 福島・115期
高橋 晋也

北日本地区は新たにS班の仲間入りをした新山豊平が先導役を担う。競輪祭で初のGIタイトルを獲得。その先行力は輪界トップクラス。10月まで在籍したナショナルチームで培ったパワーとスピードは脅威で、S班になったことで更に責任感も増した。
その新山を筆頭に、高橋晋也など個性豊かな機動型の手網を握るのが名手・佐藤慎太郎だ。経験に裏打ちされた確かな援護と、戦術眼はまさに職人の域。若手を巧みに操縦して、最後は鋭い差し脚を披露する。
スピード満点の新山豊平が先導役名手・佐藤慎太郎がタクトを振る

関東勢は3連覇中の平原康多が主役。優しさと厳しさを兼ね備えた地元のエースは誰よりもラインを大事にし、選手やファンからの信頼は厚い。不惑の40歳を迎えても、脚力は当然ながら、レースセンスや判断力、全ての面において高いレベルで安定。大会4連覇へ視界は良好といえそうだ。
急成長を遂げる吉田有希も大暴れしそうな予感。8月のオールスターでGI初勝利を挙げると、10月の寛仁親王牌では力強い走りを披露して準決勝まで勝ち上がった。上昇カーブを描く若干21歳の新鋭から目が離せない。
4連覇を目指す平原康多が総大将。機関車は急成長を遂げる吉田有希をつかむのは果たして…。

勝負の世界に生きる者たちが激突する 熱戦の4日間を制するのは果たして…

エース郡司浩平が南関を率いる破壊力ある深谷知広の一撃は必見
4年連続のS班となる郡司浩平は、9月の共同通信社杯で完全優勝をすると、11月の競輪祭ではオール連対で準V。円熟味を増したエースがその実力を存分に発揮すれば、南関勢の勢いは更に加速するだろう。
実力者の深谷知広は静岡に移籍して3年目に突入。今では若手のリーダーとして、南関全体の底上げにも尽力している。レースでは、豪快な先行と爆発力あるまくりを使い分けて他地区に襲い掛かる。
S級1班は二人だけとなった中部勢だが、血屋豊と不破将登のデキが鍵を握る。両者ともにツポにハマった時の威力は半端ない。
2022年前半の稲垣裕之は落車や失格でリズムを崩したが、後半にかけては成績も上昇。若手からベテランまで揃った近畿勢をまとめ上げるのはこの男しかない。
中国地区は柏野智典が中心となって、山根将太や宮本隼輔など攻撃力豊かな若手タレント陣を指揮する。
四国は佐々木豪と門田凌の愛媛自力型コンビに、高原仁志、福島武士、凌聖二などいぶし銀の追い込み陣が揃った。
九州は中本匠栄が中核となり、実績ある井上昌己や中川誠一郎、勢いある岩谷拓磨とラインを組んで強敵に立ち向かう。

S1 熊本・97期
中本 匠栄

S1 愛媛・109期
佐々木 豪

S1 岡山・88期
柏野 智典

S1 京都・86期
稲垣 裕之

※競定成績は2022年12月1日現在のデータです。